

「森里海連環高津川流域ふるさと構想」特区

[指定：平成23年12月、認定：平成29年3月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(5+4.7)/2=4.9$

4.9

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	評価指標(1) 路網整備と計画的施業の推進	101%	5
2	評価指標(2) 地域資源を活用した農村定住・交流促進	158%	5
3	評価指標(3) 高津川流域の水質浄化及び川と海の水産資源の維持・増殖	118%	5

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 3 + 4 \times 0 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 3 = 5$

5.0

※1) 1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

※2) 数値目標○は複数の数値目標があり、※1のとおり各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均しているため、進捗度と評点が一致しない。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.7

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(4.3+3+3.8)/3=3.7$

3.7

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

4.3

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

3.0

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.8

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

4.3

・乾燥材出荷量の増加などに林業振興の成果が着実に現れている。製材に向かない木材等もチップとして津和野市のバイオマス発電所に供給され、地域資源の有効活用が図られている。この森林資源を生かした再生可能エネルギーを組み込んだ生活をアピールすることで定住人口の獲得が可能性もある。清流と併せたトータルの暮らしの提案を求めたい。

・ほとんどの評価指標で目標を達成し、順調に進捗していることから、十分に優れていると判定した。森・里・海(川)の取組の中で、特に森における林業従事者の高齢化に伴う担い手確保に向けた対策は大きな課題であり、高津川流域ならではの魅力の発信にも力を入れることが望まれる。

・特区としての目標に向けて順調に取組が進められている。また、新規就農者の確保については、ワイン生産、獣害対策が功を奏しており、期待したい。交流人口については、地域全体の目標と照らし合わせ、観光や将来の定住等と絡めて意義のある取組をしていくことが重要と思われる。

・高津川を基軸とした森里海の連環を高める取組を丁寧に積み重ねている。作業路網整備を着実に進め、付加価値の高い乾燥建材の出荷量の増加を高めている。農水産物は高津川流域の森里海の連環の中で育まれており、広域市町村圏の事務内容を通じた域内のつながりはあるが、域外と連携した取組は弱い印象。消費者や観光客が目に見える流域連携の一步進んだ取組に期待したい。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

4.3

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(4.9+3.7+4.3 \times 2) \div 4 = 4.3$

4.3

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

・評価は5～1(評点)で行う。

・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。

・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。